

季節の花を用いた大型空間ディスプレイの制作

大阪府立園芸高等学校

フラワーファクトリ科 2・3年草花専攻

1、目的

近年花業界で求められる人材はフラワー装飾に関する技術を幅広く持っていることであり、従来の西洋から伝わったフラワーアレンジメントの知識や技術だけでなく、日本古来から継承されてきた華道の技術を持っていることが有効である。本研究では、長年花業界に携わってきた専門家の方から講義および指導を受け、実際に制作することを通して広い空間を飾る大型ディスプレイの制作技術を身につけることを目的としており、平成28年秋より継続している研究である。

2、実施計画

平成30年秋・令和元年秋	剣山方式あるいは投げ入れ方式の実習	個人で制作
令和2年 2月13日	投げ入れ方式の実習（大作）	2名1組で制作
令和2年秋	投げ入れ方式の実習	個人で制作
令和3年 1月14日	3年投げ入れ方式の実習（大作）	2名1組で制作
令和3年 2月 5日	2年投げ入れ方式の実習（大作）	1～2名1組で制作

3、実施

令和3年1月14日 投げ入れ方式の実習（大作）



（使用した花材）

枝物：サンシュウ・コデマリ・ツバキ

花物：キク・アンスリウム・グロリオサ・ナノハナ・チューリップ・エピデンドラム など

4、考察

1年生の頃は、剣山などといった道具を使用するのも、枝物などを思ったような角度に留めることも難しく感じていた。しかし、3年間の実習を通して華道のコツを覚え、枝物の裁き方や自分が思うように枝を留めることが少しはできるようになり、技術向上をした様に思う。また実習を通して華道の魅力に気付くこともできた。また大作の実習では今まで使用したことがないような花材を使用することができ、新しい植物を知ることができた。今後は、多くの人が集まるような場所を華道の技術を使って装飾してみたい。